

# 農 研 速 報

平成 29 年 1 月 16 日発行  
 茨城県農業総合センター農業研究所水田利用研究室  
 〒301-0816 茨城県龍ヶ崎市大徳町 3974  
 TEL: 0297-62-0206 FAX: 0297-64-0667

## 大豆の生育概況(龍ヶ崎市)

地 域 名	生育(作柄・品質)概況	備考
茨 城 県 (龍ヶ崎市)	<p>1) 気象概況:                          大豆生育期間中(6月19日～11月2日)を通して、日平均気温は平年より0.3℃低く、降水量は平年比99%で平年並、日照時間は平年比80%と少なく推移した。時期別の気象は以下のとおり。                          日平均気温は、平年と比較して6月第5半旬から7月第6半旬にかけて0.8℃低く、8月第1半旬から9月第4半旬にかけて0.5℃低く、9月第5半旬から10月第2半旬にかけて1.8℃高く、10月第3半旬から11月第1半旬にかけて0.9℃低く推移した。                          降水量は、7月第4半旬から8月第3半旬まではほとんど雨が降らず平年比25%と極めて少なく推移した。一方、8月第4、5半旬および9月第4半旬には台風の影響によりそれぞれ124mm、92mm、90mmとまとまった降雨があった。                          日照時間は、6月第5半旬から7月第6半旬にかけて平年比88%とやや少なく、8月第1半旬から9月第2半旬にかけて平年比98%と平年並、9月第3半旬から10月第2半旬にかけては平年比28%と極めて少なく推移した。</p> <p>2) 生育概況  <u>タチナガハ</u>: 出芽期は6月25日、開花期は8月1日と平年と同様に推移したが、成熟期は11月2日と平年より5日遅くなった。倒伏がみられ、激しい青立ちが発生した(倒伏程度2、青立程度4.5)。主茎長はやや長く、主茎節数、分枝数、茎の太さは平年並であった。一方、全重は平年比64%とかなり軽かった。百粒重は平年並だが稔実英数は平年比57%とかなり少なく、子実重は平年比43%とかなり低収となった。  <u>里のほほえみ</u>: 出芽期は6月26日、開花期は8月2日と前年と同様に推移したが、成熟期は10月31日と前年より9日遅くなった。倒伏、青立ちがみられたが「タチナガハ」より軽度であった(倒伏程度1.3、青立ち程度1.0)。主茎長は前年並、主茎節数はやや少なく、分枝数は少なく、茎の太さは前年並みであった。全重は前年比75%と軽かった。百粒重がやや軽く、稔実英数がやや少ないことから、子実重は前年比62%とかなり低収となった。  <u>納豆小粒</u>: 出芽期は6月24日、開花期は8月8日と平年と同様に推移したが、成熟期は10月31日と平年より4日遅くなった。かなり倒伏がみられ、青立ちも発生した(倒伏程度4.5、青立程度2.5)。主茎長および主茎節数は平年並、分枝数は少なく、茎の太さはやや細かった。全重は平年比70%とかなり軽かった。百粒重は平年並だが稔実英数は平年比65%とかなり少なく、子実重は平年比59%とかなり低収となった。</p> <p>開花期前後から英伸長期にあたる7月下旬から8月中旬にかけて降水量が平年比20%と雨がほとんど降らず乾燥した状態が続き、着英数が低下し子実の肥大が抑制された。その後は、台風などによる風雨の影響を受け、子実肥大期には葉焼病の発生や風雨の影響による上位葉の著しい痛みや落葉が認められた。これらのことが、本年の低収要因として推察された。</p>	

表 1 成熟期における生育、収量、品質

品 種	開花期			成熟期			主茎長			主茎節数			分枝数		
	本年 (月日)	前年差 (月日)	平年差 (月日)	本年	前年差 (日)	平年差 (日)	本年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (節)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (本/株)	前年比 (%)	平年比 (%)
タチナガハ	8月1日	±0 (8月1日)	+1 (7月31日)	11月2日	+11 (10月22日)	+5 (10月28日)	64	131 (49)	112 (57)	14.3	106 (13.5)	101 (14.1)	5.0	102 (4.9)	109 (4.6)
里のほほえみ	8月2日	+1 (8月1日)	-	10月31日	+9 (10月22日)	-	59	98 (60)	-	13.7	92 (14.9)	-	4.1	82 (5.0)	-
納豆小粒	8月8日	±0 (8月8日)	+2 (8月6日)	10月31日	+7 (10月24日)	+4 (10月27日)	77	113 (68)	103 (75)	16.5	98 (16.8)	96 (17.2)	7.2	97 (7.4)	82 (8.8)

品 種	茎の太さ			全重			稔実莢数			子実重			百粒重		
	本年 (mm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (kg/a)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (莢/株)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (kg/a)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (g)	前年比 (%)	平年比 (%)
タチナガハ	10.0	106 (9.4)	100 (10.0)	43.2	67 (64.7)	64 (67.1)	31	62 (50)	57 (54)	13.5	39 (34.3)	43 (31.7)	34.4	88 (39.1)	95 (36.3)
里のほほえみ	11.0	98 (11.2)	-	50.8	75 (67.3)	-	41	87 (47)	-	19.6	62 (31.5)	-	37.4	87 (42.9)	-
納豆小粒	9.2	94 (9.8)	87 (10.6)	51.0	75 (68.1)	70 (72.5)	115	79 (146)	65 (177)	19.3	63 (30.8)	59 (32.8)	10.6	93 (11.4)	102 (10.4)

【耕種概要】

- 1) 圃場(来歴): 中粗粒灰色低地土(輪換畑, 転換2年目, 前作麦)
- 2) 播種日: 6月19日, 栽植密度: 11.1株/m<sup>2</sup>(畦間60cm×株間15cm) 1本立て, 施肥量: N-P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>-K<sub>2</sub>O: 0.3-1.2-1.2 (kg/a)
- 3) 中耕・培土: 1回目 7月14日, 2回目 7月22日
- 4) 病虫害防除: 8月9日, 8月26日, 9月6日の3回実施

【平年値および注意】

- 1) ( )内は前年値または平年値。平年値は直近5カ年分(平成22年～27年, 平成24年は天候不順により播種期が7日遅れたため除外)のデータ平均値。  
「里のほほえみ」は平成27年度から実施のため平年値のデータなし。
- 2) 茎の太さは第1節(子葉節)と第2節(初生葉節)の中間で最も太い部分を測定。
- 3) 子実重, 百粒重は水分15%換算。子実重は「タチナガハ」, 「里のほほえみ」が7.3mm篩上, 「納豆小粒」は4.9mm篩上の重さ。



図 1 所内大豆の成熟期頃の生育状況 (10月31日撮影)

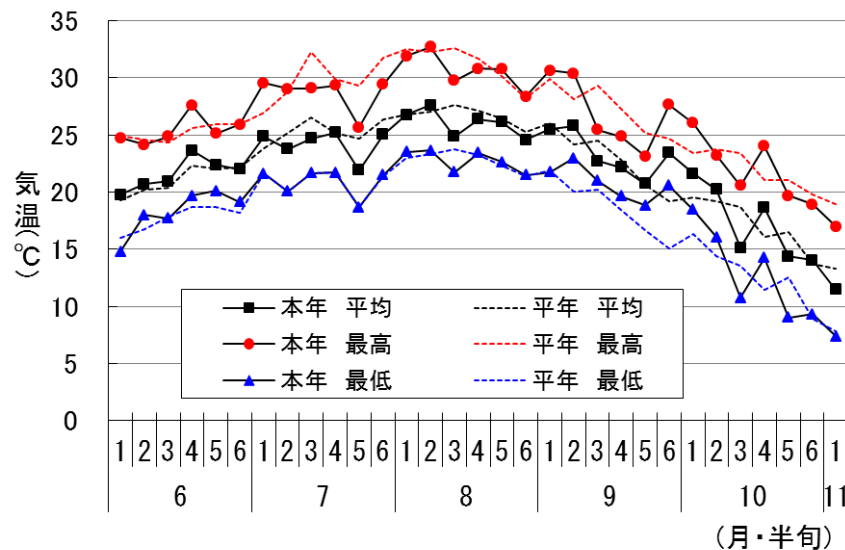


図2 最高・最低・平均気温の推移

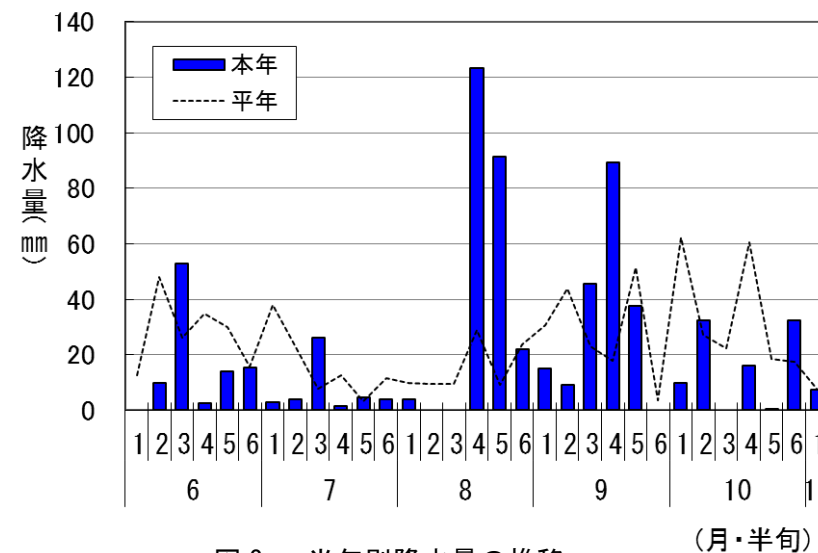


図3 半旬別降水量の推移

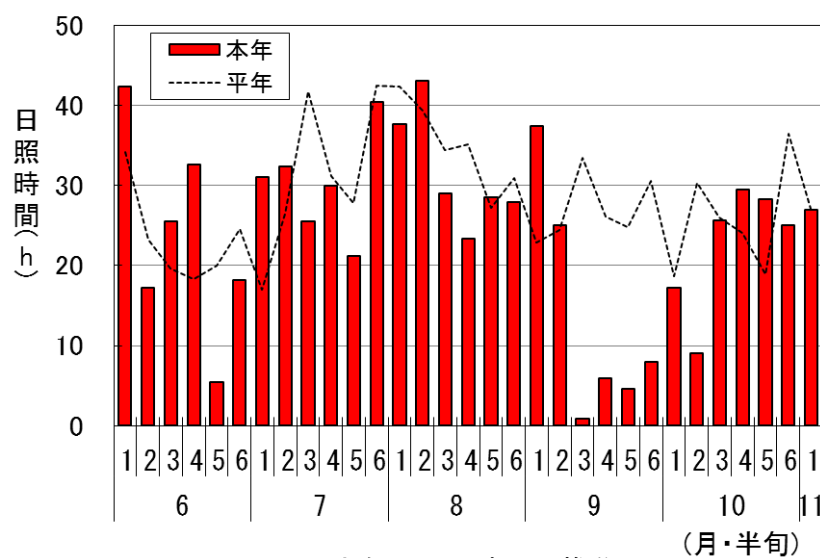


図4 半旬別日照時間の推移

※龍ヶ崎アメダスデータ参照，平年値は直近5ケ年の平均値